

令和4年度 第1回 大阪府泉佐野丘陵緑地 運営審議会 議事録概要版

日時:2022年11月21日(月曜)10:00~12:00

場所:泉佐野丘陵緑地パークセンター

現地出席者:増田(大阪府立大学名誉教授)、前中(元大阪府立大学大学院教授)、武田(大阪公立大学大学院准教授)、阿久井(大阪公立大学助教)、那須、東口、佐々木(泉佐野丘陵緑地パーククラブ)、山本(大輪会事務局:代理出席)、家治(泉佐野市都市整備部長)、大阪府(事務局)

オンライン出席者:上田(大阪公立大学大学院准教授)

欠席者:堀田(和歌山大学教授)、原田(大輪会事務局長)

議事:

1. 審議

(1) パークレンジャー養成講座の開催について(事務局より)

<今後の方向性>

- ・講座の実施及び講座内容について協議した結果、原案通り承認された。

(2) 今年度下半期の活動について(東口委員より)

① 半島棚田の整備に関する議論

<主だった論点>

- ・下半期に予定している半島棚田の最上段を花壇として整備することに関する議論

<主だった意見>

- ・公園の目標を踏まえて、半島棚田をどのような場所にしたいかという方向性を考えてもらいたい。その上で、半島棚田にどの種の花苗を植えるかを検討してほしい。
- ・「花壇」と呼ぶと、家庭の庭や外構を想像してしまう。「花の見どころづくり」と捉えてはどうか。また、一度に整備を進めるのではなく、少しずつ景観を変えていく方が、成長していく「また来たくなる公園」につながる。
- ・半島棚田の整備にあたり、この地域の在来植物を育てるという視点を取り入れるなど、地域らしい景観づくりも意識してもらいたい。

<今後の方向性>

- ・泉佐野丘陵緑地の理念と照らし合わせつつ、専門家の意見も交えて、パーククラブ内や中地区検討委員会で具体的な整備像を考え行くこととなった。従来の花壇のイメージを脱却した、里山の風景にあった花づくりを目指す。

(3) 泉佐野丘陵緑地の土地利用方針の変更等について(事務局より)

① 中地区と東・西地区等の関わりに関する議論

<主だった論点>

- ・大阪府や泉佐野市が考える「中地区と地域や産業用地をつなぐ公園」の具体的内容に関する議論

<主だった意見>

- ・大阪府では、泉佐野市のまちづくりの考え方を尊重し、現状の中地区での「企業の森」活動等を活用して、公民協働の枠組みを継続して貰いたいと考えている。泉佐野市からは、東・西に進出

される企業の方とも連携していきたいと聞いている。

- ・泉佐野市としては、東・西地区に進出する企業には、CSR 活動の一環として、地域貢献や環境保全の観点から中地区の公園と連携してもらいたいと考えている。また、市内には SDGs の取組みを進める企業がたくさんあるので、その企業にも中地区を活用してもらいたい。
- ・東・西地区の開発は、もともとの公園計画を踏まえて、環境や景観、緑の繋がり等を意識したものであることが望まれる。また、機能面だけでなく、景観や自然を付加価値とした開発も望まれる。さらに、通常の開発とは異なるということを打ち出しながら、企業には、開発と自然のバランスを取りながら SDGs に貢献するメリットを理解してもらおうことが重要であろう。

② 東・西地区の土地利用転換と中地区の市への移管に関する議論

＜主だった論点＞

- ・東・西地区の土地利用転換と中地区の泉佐野市への移管に関する論議

＜主だった意見＞

- ・まず、東・西地区を産業用地へ転換し、泉佐野市が開発を進めることに関して、府市によって政策決定された事項で、審議会としては、その報告を確認したこととした。
- ・中地区の移管に関しては、令和 7～8 年を一つの目途として考えられていることを確認するとともに、移管に際しては今後十分な協議、調整を図ることも確認した。

③ 今後の公園整備に関する議論

＜主だった論点＞

- ・今後の公園整備に関する論議、特に、今後の整備に関わる費用や大輪会の支援、竹林の整備に関する論議

＜主だった回答・意見＞

- ・リーディングエリアの整備後、特にコラボレーションエリアの整備に関しては、巨額の公費を投入して整備するのではなく、パーククラブの活動や企業参画のできる範囲内で整備を進めることが本丘陵緑地の理念や基本方針であり、今後ともこの理念や方針に基づいて整備を進めることとなること。
- ・また、未整備の竹林に関しても、樹種転換や適正な密度管理を目標として掲げているものではなく、ここでもできる範囲内で整備を進め、残りは現状を受け入れることとしてきたことを確認した。
- ・大輪会の助成金は 2027 年まで支援することと決まっているが、中地区の市への移管に際しては、十分な調整が必要となることを確認した。
- ・大阪府としては、泉佐野市への移管に際してもこれまでの公園づくりのスキームが持続できるようにしたいと考えていること。
- ・運営審議会としても、市への移管に際して、大阪府と同様これまで通りのスキームが維持されることが望まれるが、十分な協議と調整を図っていただきたい。

2. 報告

- (1) 今年度上半期の活動について
- (2) 東地区及び西地区の用途変更について
- (3) 中地区の移管について

<報告案件に対する増田会長の意見>

- ・今後の展開に関わる情報共有に関して、極力タイムラグが発生しないようにパーククラブと密に連絡をとっていただきたい。特に移管に関しては、パーククラブ内で実施したアンケート調査や増田との意見交換会等の結果も踏まえて、大阪府の方で論点を整理しながら各関係者とどのように協議を進めるべきかを考えていただきたい。
- ・我が国では今年から団塊の世代が後期高齢に入り、多くのボランティア活動の高齢化が課題となっている。現状のパーククラブにおいても、高齢化にともなう体力低下や出席率の低下の問題がある。加えて、若い人の入会が少ない状況である。このような状況の中で、今後のパーククラブの活動をどのように継続するか、あるいは、若い人達にどのように参画してもらうのかを、今後、運営審議会等でも議論する必要があるだろう。

3. その他

(1) 前中委員の退任について

任期満了での退任に際し、挨拶頂いた。

以上